

野口氏送別會

會員野口ゆか子氏米國に留學に付二月二日第二十常會の後送別會を開く在出席者に京都官廳院長島居嘉三郎君外會員四十七名なりき

まづ初に中村主幹開會の辭を述べ次にフレイベル會員一同よりの送辭朗讀あり會員羽田晴子氏より野口氏に短歌二首を贈らるゝあり次に野口氏の答辭あり終て會員小西信八氏及來賓島居嘉三郎君の談話の後茶菓を供し椅子取り輪拾ひなどの遊をなし終に野口氏送別の歌をうたひ午後五時二十分散會せり

野口ゆか子の君を送る辭

ことしけふ二月二日、望を以て野口ゆか子の君を送る。そも君は我幼稚園事業の爲に、盡力したまふと、こゝに十一年、こたびはまれある命をうけて、遠く海外に留學したまはんとす。君の光榮は申すもさらなり。幼稚園事業の爲、本會の爲、會員一同のよろこびは、いかに深からざらんや、今や、幼稚園問題は、やうやく世人の注目する所となり、年を逐ふて、發達進歩の域に進まんとす。此時に當りて、君の此行を見るうれしともうれしく、たのしきものなり。あはれ、三年の後、君が業を卒へて、めでたく歸朝し給ひたらん時は、我幼稚園の、君に待つこと、實に切なるものあらん。幼稚園の前途、本會の前途、君の前途、またたのもしからずや。

このかぎりなきふるこびとのぞみは、吾等をして、こゝにいさゝか送別のまことめを開かしめぬ。希くは君、山川遠くへだより、風土異なるかの地に至りたまひつらん後は、いかに、御身健に國家の爲つくしたまへ。

幼児の爲につとめたまへ。

明治三十四年二月二日

野口ゆか子の君の米國に留學せられたるを祝ひて
フレイベル會員一同

羽田 昭子

思ふとち心のかきり祝ひてん

世に榮えある君が門出を
やすらげく歸ります日を指なりて

樂しく待たんつかしの友

入 會

東京の部

養徳幼稚園

女子高等師範學校

同

東京府女子師範學校

同

東京府師範學校

地方の部

熊本縣五福幼稚園

奈良縣高等女學校

同

池田千東
岡田起作
森川清
野尻てつ
前田捨松
藤江富佐子
小出雷吉
大平みち
大塚さだ
大桑いよ
緒方さく

奈良縣高等女學校

同

同

同

同

同

同

和歌山市始成尋常小學校附屬幼稚園

和歌山市女子高等小學校附屬幼稚園

同

同

大阪市東區汎愛幼稚園

新潟縣高田町高等女學校

和歌山市高等女學校

同

廣島市高等女學校

山形縣米澤高等女學校

神戸市神戸幼稚園

寄附金

一金三圓

右一月二十六日幼兒發育研究組會講師宮本仲先生より
雜誌部に寄附せられたり

龜岡	土屋	草間	山口	山田	安達	淺田	師岡	若尾	川村	中山	宮本	中井	中野	武藤	山本	松岡	福地	榎本	瀬野
ふ	つ	貞	孝	つ	や	し	仲	久	澄	ま	す	馬	記	め	し	み	ち	つ	れ
ぎ								壽									ま	代	

